

表 1 〈星虹〉の候補

分 類	名 称 (案)	連続スペクトル	線スペクトル
点 源 ¹⁾	星虹: starbow	星 原始星 主系列星 白色矮星 中性子星 降着目盤 赤外線源 活動銀河中心核	キューサー
点 源 の 集 団 ²⁾	群虹: cluster-bow	星団 散開星団 球状星団	
拡がりのある天体	斑虹: patch-bow 雲虹: cloud-bow ³⁾ 碎虹: fragment-bow	超新星残骸 HII 領域 銀河 太陽 惑星	中性水素雲 分子雲 発光星雲 散光星雲 惑星状星雲
背 景 放 射	散虹: diffuse-bow 景虹: background-bow	3K背景輻射 ダイフューズX線 ダイフューズ赤外線 黄道光	
すべてを重ね合わせた虹 万華虹: kaleido-bow			

注 1) 肉眼の場合にはキューサーなどの暗い天体は考えなくてもいいだろうが。
注 2) 基本的には点源と同じ扱いでよい。
注 3) 語呂が少し悪いので余り推奨できない(もちろん日本名の方)。

連続スペクトル例えば黒体輻射の場合、スペクトルは赤い側に裾をひいているので、紫、青、緑系統の色を出すことは困難である。O型やA型の星は青白いというが、普通の感覚では白とってよい。したがって虹の七色はとても望めない。

一方、線スペクトルを出す天体、例えば赤外、ミリ波で線スペクトルを出している天体は、ドップラー偏移によって可視域に移動すれば“色”が着くはずだ！もちろんこの場合も色の着き方は、スペクトル線の強度や幅に依存するだろうが。

具体的な天体の例も思いつくまま表1に挙げておく。

このような星以外の天体からの寄与を考え合わせると、それらの織りなす色とりどりのパッチワークのタペストリーに、3~4彩に輝く宝石すなわちドップラー偏移した星々をちりばめた万華虹の宇宙が視えるのではないだろうか？

パソコンにアクセスできるようになって最初に星虹をつくらうとした時に、山敷達也くんは一緒に遊んでくれました。石原藤夫氏は実視等級などについて考察するきっかけと場所を与えてくださいました。視覚化への最後のプレッシャーをかけてくれたのは佐藤 傑さんです。さらに横尾武夫氏と定金晃三氏は、しばしば趣味に走る筆者をいつも暖かく見守ってくれます。特に横尾武夫

氏からは星座プログラムと処理した BSC データを提供していただきました。また原田和洋くんをはじめ研究室の学生諸君はカメラのセットを手伝ってくれました。筆者はほとんどシャッターを押しただけです。最後に本稿を掲載するにあたり吉井 譲氏と吉沢正則氏にはいろいろと便宜を計っていただきました。この場を借りて皆さんに感謝いたします。

お 知 ら せ

三菱財団自然科学研究助成募集

上記について三菱財団より本会宛に募集要項が来ています。応募を希望される方は学会事務所に御連絡下さるか、個別に下記宛「三菱財団自然科学助成応募要項」を御請求下さい。

宛 先 財団法人 三菱財団

〒100 東京都千代田区丸の内 2-5-2

三菱ビル 15 階 Tel. 03-214-5754

助成の金額は総額約1億7千万円、1件2千万円以内、研究期間は原則として1年、応募締切は昭和63年4月11日(月)必着。(極力早めにお出し下さい)